

読解力を育成する中学校国語科指導の工夫

—自分の考えと友達の考えや筆者の主張とを比較する活動を通して—

国語班 大澤 彰仁(中学校教諭)

主題設定の理由

読解力向上プログラム (H17文部科学省)	<ul style="list-style-type: none"> ○テキストを理解・評価しながら読む力を高める取組の充実 ○テキストに基づいて自分の考えを書く力を高める取組の充実 ○様々な文章や資料を読む機会や、自分の意見を述べたり書いたりする機会の充実
H23群馬県学校教育の指針(国語科指導の重点)	論理的な述べ方や考えを引き出す質問の仕方、考えを深める交流など、ねらいを明確にして児童生徒が意欲的に取り組む言語活動を単元に位置付け、言葉で伝え合う力を高める授業を行う
協力校の実態	説明的文章の読解において、内容を正確に理解できなかったり、筆者の主張に対して自分の考えを根拠として示して表現できなかったりする場面が多く見受けられる

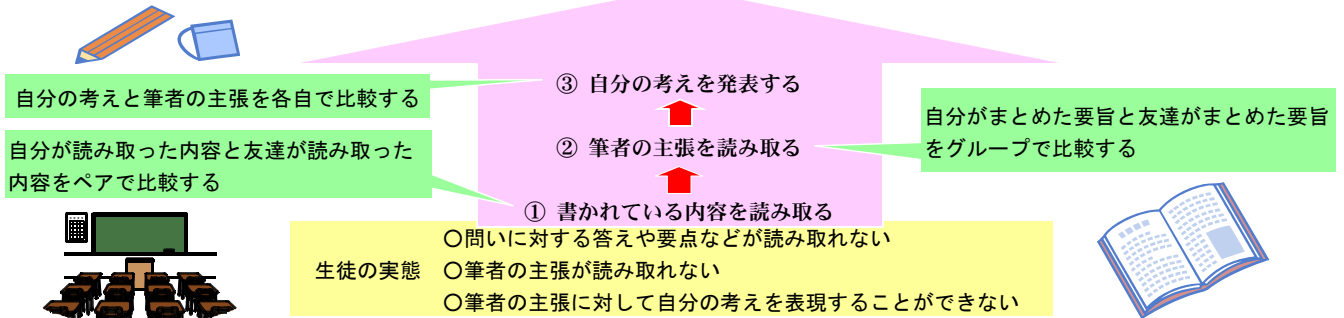
読解力の育成

※ ここでの「読解力」とは、PISA型読解力をはじめとした国際的な読解力のことである。国立教育政策研究所の有元秀文氏は「国際社会で『読解力』とは、正確に読んで、読んだことを根拠にして、自分の意見を表現すること」と述べている。

研究構想図

《 読解力の育成 》

◎書かれている内容を正確に読み取る力と、読んだことを根拠にして自分の意見を表現する力を身に付けた生徒



実践と結果

教材 『言葉の力』(池田晶子 教育出版)

手だて	ねらい	結果(抽出生徒の活動・ワークシートより)
① 読み取った内容をペアで比較する	「言葉」の起源や「言葉」と意味の関係などについて読み取る	問いと答えのキーワードをとらえ、それを基に自分の答えの正しさを友達に説明し、問いに対する答えを友達と検討し合うことができた
② 読み取った要旨をグループで比較する	文章の要旨をまとめ、筆者の主張を読み取る	言葉をどのように扱うべきかということが筆者の一番言いたいことだと考え、「自分の語る一言一句が自分の人生や人格を創っていく」ので「言葉を大事に扱わなくてはならない」と要旨を締めくくっていた
③ 自分の考えと筆者の主張を比較する	自分の知識や経験を根拠にして、筆者の主張に対する賛否を論じる	「言葉は自分そのものだから大事にすることだ」という筆者の主張に対して、「自分の発した不用意な言葉で叱られた」という経験があるため、言葉は大事にしなければならないという筆者の主張に賛成であると論じることができた

成果と課題

- 自分の考えと友達の考えや筆者の主張とを比較することにより、筆者の主張をはじめとした書かれている内容を読み取るとともに自分の考えを表現することができ、読解力を育成することができた
- 自分の考えと友達の考えとを比較するために繰り返し行ったペアまたはグループによる交流は、「言語活動の充実」に結び付く取組であることが分かった
- 友だちとの交流が効果的かつ効率的に行えるよう、授業形態や交流時間の確保等に配慮した授業構想をする必要がある
- 読んだことを基にして、自分の考えを表現することの定着を図るために、書く領域と連動した指導を展開する必要がある